

## 2020 年度第 3 回 火山学会理事会 議事録

開催日時および開催場所

2020 年 5 月 19 日 13 時 00 分～ 16 時 35 分

Zoom を用いたネット会議

出席者：篠原宏志，青山 裕，井口正人，石峯康浩，市原美恵，下司信夫，嶋野岳人，高木朗充，東宮昭彦，千葉達朗，西村太志，萬年一剛，宮縁育夫，吉本充宏，  
オブザーバー参加：奥村聡，上田英樹，

はじめに、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、第 2 回・第 3 回理事会および 2020 年度通常総会の開催について、開催方式の変更に関する状況説明を庶務委員会から行い、了承された。

議題 1. 2020 年度日本火山学会各賞選考結果について

2020 年度日本火山学会各賞の選考結果に基づく受賞者候補が各賞選考委員会から提示され(資料 1)，理事会として承認した。なお、本年度の通常総会の開催が書面による表決方式に変更されたため、総会承認と表彰式等は 10 月に予定している秋季大会時の臨時総会にて行う予定であり、それまでは受賞内定として表彰等の準備を進めることが合わせて報告され了承された。

各委員会からの報告

庶務委員会

会員数動向について報告した。2020 年 5 月 1 日時点での会員総数は 1052 名で、うち維持会員が 286 名、学会会員が 639 名、一般会員が 127 名である。

大会委員会

本年度秋季大会の開催方法等について、検討状況を報告した。

現在の新型コロナウイルス感染症対策として、秋季大会について現地開催が困難な場合も含めていくつかのシナリオを検討している。投稿締め切りについては 6 月中には会員に提示する必要がある。発表の投稿締め切りをできるだけ遅くすることが参加する会員にとってもまた準備する大会委員会にとっても望ましい。そのため、予稿集の編集にかかる時間を削減するため、印刷物の予稿集を大会までに作成することをやめ、PDF のみの配布にする。これにより 8 月末～9 月上旬に投稿締め切りを伸ばすことが可能である。

現地開催が難しい場合、オンライン開催として実施することも検討する。オンライン開催の場合、11 月に開催時期を遅らせる方針。オンライン開催の場合、現在準備いただいている名古屋大学を中心とする LOC にその開催作業をお願いするのは難しいだろう。大会委員会が中心となって実施するしかない。

一部地域等の感染状況によっては、会場に参加できない会員が生じるかもしれない。その場合には、現地開催と合わせてオンライン上での参加ができるような仕組みを考える必要がある。

秋季大会自体の開催を中止する判断もあり得るが、秋季大会が学術団体としての火山学会の中心的な行事である以上、秋季大会の開催中止はできるだけ避けることが望ましい。

以上のような論点について意見交換を行った。その議論を受けて、本年度の秋季大会については現状では予定通り名古屋大学会場にて 10 月に実施する方向で準備を進め、開催が著しく困難な場合にはオンラインでの開催とすることが了承された。オンライン開催としかどうかの判断は 8 月下旬ぐらいまで、理事会での判断とすることが了承された。

発表の投稿時期をできるだけ遅らせるため、編集に時間を要する予稿集については会場での冊子体の配布は行わず、希望者に対しては後日実費で配布する方針が了承された。

#### 各賞選考委員会

各賞選考過程について報告があった。また通常総会時に各賞の承認が行えないため、総会承認及び表彰については秋季大会時に実施する予定で準備することが報告された。

#### 編集委員会

「火山」編集状況について報告があった。65 巻 2 号は 6 月末に発行予定であること、計 4 本の論文が査読中であることが報告された。また特集号企画 1 件が進行中である。

#### 事業委員会

火山学会グッズとしてのフィールドノートを作成について報告があった。

#### 他学会連絡担当委員会

EPS 誌の現状について報告があった。2020 年度の火山学会の分担金は例年通り 20 万円とする学会間覚書が交わされたことが報告された。また新編集長（鷲谷威委員長、能勢正・加藤愛太郎副委員長）が決定したことが報告された。また、EPS の Impact Factor の現状について、2019 年度の推定値は 2.1 と推定されることが報告された。

#### 国際委員会

台湾で実施した ACV の開催状況について報告があった。また第 12 回火山都市会議の鹿児島誘致を目的として設置していた準備委員会について、第 12 回火山都市会議の誘致に至らなかったため、解散することが提案され承認された。

#### 将来計画員会

学術将来検討小委員会で行った夢ロードマップの作製について報告した。夢ロードマップについては作成の背景や経緯も含めて総会に資料として提示することとした。夢ロードマップの作成完了をもって、学術将来検討小委員会の任務は終了したため、本小委員会の解散が提案され、承認された。

#### 学校教育委員会

サマースクールの来年度への延期について報告があった。サマースクールに対する分担金の支出について、学会会計上問題がないか議論し、問題ない旨理事会として了承した。

また、秋季大会時の公開講座について科研費研究成果公開促進費が採択されたこと、また公開講座の開催可能性が不透明なため、学振に対して科研費の交付申請保留届の提出を行っていることが報告された。

火山防災委員会

2019年度の火山防災関連の企画等の実施状況について資料の提示があった。

広報委員会

2019年度の広報活動関連の企画等の実施状況について資料の提示があった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2020年5月27日

議長 篠原宏志

議事録署名人 千葉達朗 西村太志

2020年5月19日

新型コロナウイルス感染拡大対策に関連する、日本火山学会 2020 年度通常総会および理事会の開催方式の変更について

庶務委員会

新型コロナウイルス感染拡大対策として、4月初めに日本地球惑星科学連合は千葉市幕張メッセで5月24日～28日に開催予定の連合大会の会場での開催を中止した。日本地球惑星連合の決定を受けて本会では、連合大会時に開催している本会の通常総会について開催を検討した。その結果、定款に規定されている本年度の本会運営に必要な財務関連および役員人事に限って総会議決を行うための総会の開催を計画した。定款等の規約的制約、技術的・設備的な制約から、通常総会については、会員にはウェブサイトおよび郵送した書面により総会の議案を周知し、かつ議決権の行使のための議決票を作成し配布した。この時点で総会における議案は理事会において承認されている必要があるため、財務関連（2019年度決算関係・2020年度予算）についてのみ、緊急で総会開催周知前に議決を行った。そのため、例年では総会の前に実施する理事会で議決し総会に送付している議事について、総会での議決を先送りせざるを得ない事態となった。現在までに判明している先送り議事は以下である。

**\*2020 年度各賞選考結果の承認**

\*日本火山学会役員選挙規程の変更（←立候補が定足数に満たない場合の無投票当選の扱い、及び立候補投票について、電子メール等での実施方法について追加予定）

2020 年度各賞選考については、理事会で早急に承認し、内定状態で表彰および受賞記念講演等の準備を行う予定。

また、2020 年度秋季大会についての開催案内についても、事態の不確実性から今回の総会における説明は行わない。

会員に対する周知案件は、学会ホームページおよびメーリングリスト等を用いて随時案内を実施する。

以上

理事のみなさま

各賞選考委員会委員長の千葉です

各賞選考委員会から 選考結果を報告します

■日本火山学会賞 応募は1件 で決定は以下のとおり

●中川 光弘

北海道大学 大学院理学研究院 自然史科学部門 地球惑星システム科学分野

日本及び近隣地域の火山地質学・火山岩岩石学研究の発展と人材育成への貢献

■普及啓発賞 応募は1件 で決定は以下のとおり

●公益財団法人 阿蘇火山博物館  
(代表者：池辺伸一郎)

活動的火山における火山博物館運営の先駆的活動と、ジオパーク活動等を通じた火山学の多面的な普及啓発活動の実践

■優秀学術賞 応募無し

■奨励賞 応募無し

■学生論文賞 応募は6件で決定は以下のとおり

●大橋正俊（東京大学地震研究所）

非定常気泡変形モデルの開発とその火山学的応用

「Ohashi, M., M. Ichihara, A. Toramaru (2018) Bubble deformation in magma under transient flow conditions, Journal of Volcanology and Geothermal Research, 364, 59-75, doi:10.1016/j.jvolgeores.2018.09.005.」

●西脇瑞紀（九州大学 理学府 地球惑星科学専攻 固体地球惑星科学講座 岩石循環科学分野）

マグマの発泡現象、特に気泡核形成段階において粘性が及ぼす効果の理論的考察

「Mizuki Nishiwaki and Atsushi Toramaru (2019) Inclusion of viscosity into classical homogeneous nucleation theory for water bubbles in silicate melts: reexamination of bubble number density in ascending magmas, *Journal of Geophysical Research: Solid Earth*, 124, 8, 8250-8266.」

#### ■論文賞

●井口正人・為栗 健・平林順一・中道治久(2019)マグマ貫入速度による桜島火山における噴火事象分岐論理, *火山*, 64, 2, 33-52

●橋本武志・宇津木充・大倉敬宏・神田 径・寺田暁彦・三浦 哲・井口正人(2019)非マグマ性の火山活動に伴う消磁及び地盤変動のソースの特徴, *火山*, 64, 2, 103-120

以上です

## 特定非営利活動法人 日本火山学会（2020年5月19日）庶務報告

## 〈会員関係〉

## 1. 入退会希望（別紙）

2019年度秋季大会後・入会（承認済み） 個人：8名 団体：1件  
維持会員 1名，学術会員 4名，一般会員 3名，団体一般会員 1件

2019年度退会 個人：23名 団体：1件  
維持会員 3名，学術会員 19名，一般会員 1名，団体一般会員 1件

2019年度学生会員・期間満了退会 56名  
維持会員 0名，学術会員 56名，一般会員 0名

2020年度・除名対象 個人：16名  
維持会員 1名，学術会員 12名，一般会員 3名

## 2. 会員数

	維持会員	学術会員	一般会員	計
2019年秋季大会後（個人）	276	711	107	1096
2019年秋季大会後（団体）	2	0	19	21
名誉会員	10	0	0	10
2019年秋季大会後・合計	288	711	126	1127
2019年秋季大会後入会（個人）	1	4	3	8
2019年秋季大会後入会（団体）	0	0	1	1
2019年度・期間満了退会（個人・学生）	(0)	(56)	(0)	(56)
2019年度退会（個人）	3	19	1	23
2019年度退会（団体）	0	0	1	1
逝去	1	0	1	2
区分変更	+1	-1	0	0
<b>2020年度・除名前・合計</b>	<b>286</b>	<b>639</b>	<b>127</b>	<b>1052</b>
2020年度・除名	1	12	3	16
<b>2020年度・除名後</b>	<b>285</b>	<b>627</b>	<b>124</b>	<b>1036</b>

維持会員（個人）：一般 274名 学生 0名

学術会員：一般 588名 学生 50名

## 2. 2020年度・除名対象：16名（別紙）

※6月下旬に除名警告書を発送後，8月末日までに会費の支払や会員資格継続希望の連絡がないため除名。

## 3. 学生会員期間満了退会

学生会員継続申請未提出者 56名（内3名会費未納有り）（別紙）

※2020年3月末日までに学生会員登録カードの提出がないため退会。

但し，未納会費は継続して請求する。

(別紙)

●2019 年度秋季大会後・入会 (承認済み)

維持会員 1 名, 学術会員 4 名, 一般会員 3 名, 団体一般会員 1 件

・維持会員 1 名  
中村浩二

・学術会員 4 名 (内学生 1 名)  
地引泰人・廣瀬郁・三井雄太

(学生)

田端万索

・一般会員 3 名  
谷和信・三原翠・山岸千人

・団体一般会員 1 件  
鹿児島市危機管理局危機管理課

●2019 年度学生会員・期間滿了退会 : 56 名

・会費完納期間滿了退会学生 学術会員 53 名

秋葉祐里・朝倉由香子・足立勝美・猪狩彬寛・石川歩・植田尚大・種田凌也・大野鷹士  
大橋正俊・勝岡菜々子・金田泰明・川瀬遼太・川辺智士・木村育磨・久保武史・倉本天  
栗原亮・坂本房江・佐藤侑人・白木友貴・新庄研斗・杉村俊輔・鈴木真奈美・関口誠人  
高杉直彰・田野智大・仲井一穂・中島壮太郎・西村公宏・新田寛野・橋本匡・林裕馬  
平井康裕・平峰玲緒奈・藤原寛・普代貴大・不破智志・堀内拓朗・松木田悠希・松野千裕  
松本弥祿・丸石崇史・宮下太一郎・村上翔大・森亜津紗・諸石喜大・諸澤直香・山下陽子  
山本大貴・山本春香・吉田巧・MUKHALLAD FAIZ WILDAN・RAHAJENG ARDINNI NOOR

・2019 年度未納学生学術会員 : 3 名  
猪狩一晟・菊池瞭平・山河和也

●2019 年度・退会

維持会員 3 名, 学術会員 21 名, 一般会員 1 名, 団体一般会員 1 件

・維持会員 3 名  
小林秀敏・長谷川昭・村瀬勉

・学術会員 19 名 (内学生 2 名)  
青木重樹・池田滋・岩崎悦夫・加藤智之・木村誇・佐藤比呂志・下川浩一・照井一明  
中野司・西村進・葉室和親・藤田秀樹・三上直也・安原正也・山口照寛・山田彩織・吉田英

人

・会費完納・退会学生 学術会員 1 名  
香取慧

・2019 年度未納・学生学術会員 : 1 名 (退会希望)  
山下慧



- ・一般会員 1名  
永松允積

- ・団体一般会員 1件  
株式会社ミットヨ

●逝去：2名

- ・維持会員  
伊藤英之

- ・一般会員  
前田久紀

●2020年度・除名対象：16名

- ・維持会員 1名  
上杉孝彦

- ・学術会員 12名  
浅田美穂・岡村裕子・金井啓通・佐藤俊一・佐藤智紀・高橋栄一・高橋忍・西祐司  
牧野雅彦・森田考美・矢島徹・吉田修二

- ・一般会員 3名  
岩本孝一・佐伯佳美・西宮周一

編集委員会報告（2020年5月）

1. 「火山」発刊状況

【65巻2号】 2020年6月末発行予定

論説 2編 解説紹介 2編

計 4編

2. 査読編集状況

【現在査読編集中の通常論文原稿】

計 4編 論説 2編・総説 1編・寄書 1編

3. 2019年度・各賞受賞者 解説・紹介投稿：2020年4月までに投稿はありません。

井口正人（学会賞）

市原美恵（優秀学術賞）

石塚治（優秀学術賞）

南拓人（研究奨励賞）…2020年5月中に投稿予定

白尾元理（普及啓発賞）

4. 特集号「噴火史研究と火山観測を統合した新たな火山像の確立」

特集号編集委員長：奥野充

投稿申込：2020年6月30日まで奥野氏へ連絡必要

投稿受付期間：2020年6月1日～12月末日

掲載予定：「火山」65巻4号（2020年12月）及び「火山」66巻2号（2021年6月）

2020年5月7日

日本火山学会理事会  
事業委員会活動報告(2019年度下半期分)

火山学会事業委員会担当  
石峯 康浩

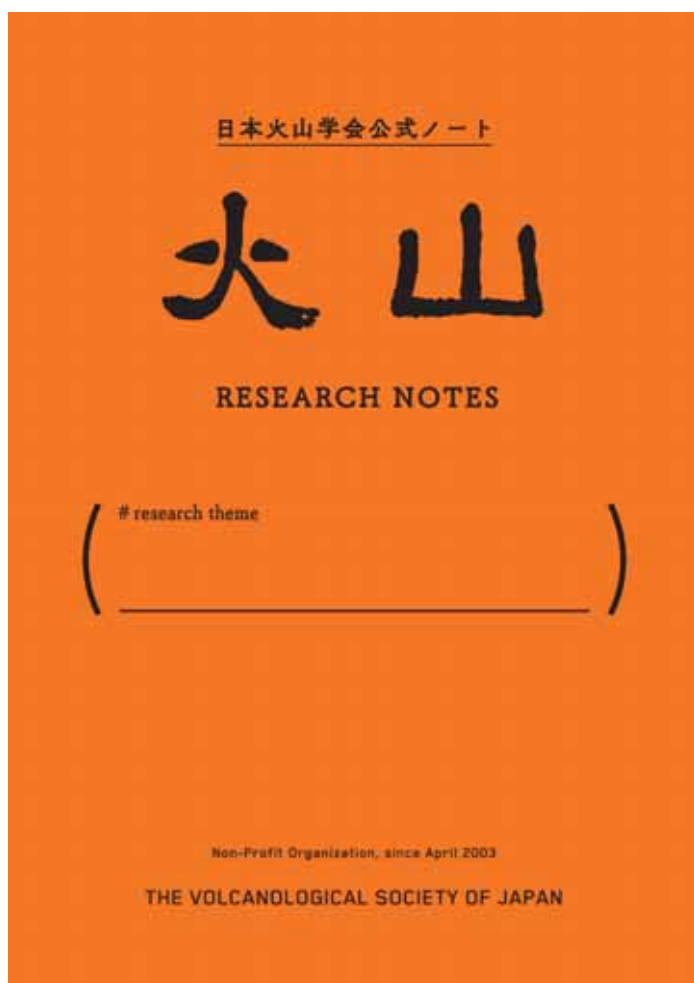
<グッズ作成>

2019年度事業として予定していたグッズ作成として、普及啓発用のオリジナルノート(B5判)を作成した。2018年度分の繰越金10万円をデザイン作成料にあて、2019年度分の予算10万円で1000部を作成した。(下図が表紙と裏表紙。P2-3に中身も掲載しますので、誤植等がないかチェックをお願いします)。

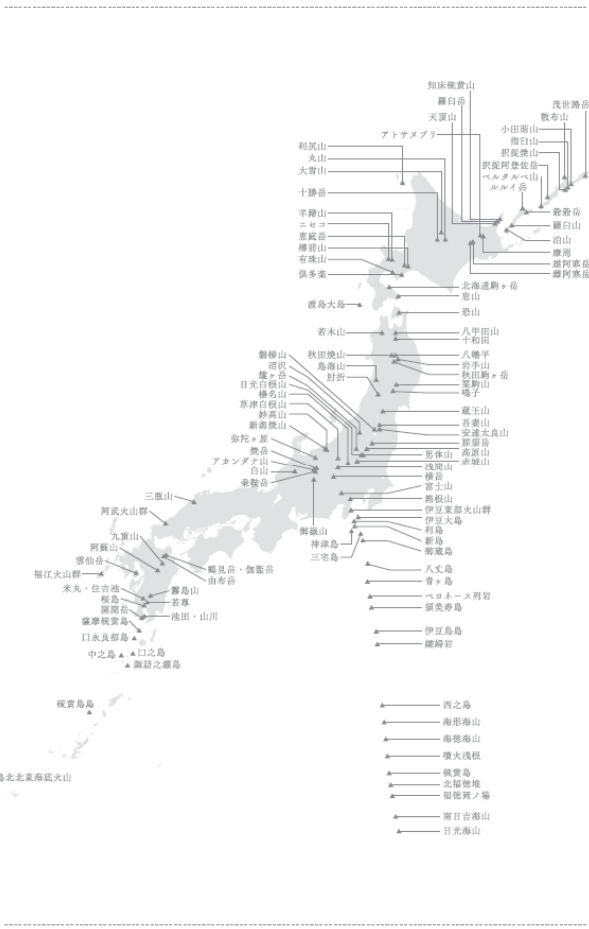
2020年度以降、秋季大会の会場等で販売することを予定している(販売予定価格:1冊400円)。火山の啓発活動に積極的に取り組んでいる全国の博物館等でも販売してもらうことを想定している。この場合、いったん博物館等にも買い取っていただく方式をとることを考えている。このような販売方式を促進するため、10冊以上のまとめ買いの場合には3割引(つまり1冊当たり280円)で販売することを予定している。この割引価格は一般市民等が個人で購入する場合にも適用する。

すでに桜島ミュージアムに100部(28,000円分)を購入いただいている。事業委員会のメンバーとしてノートのデザインと作成を中心的に手掛けた桜島ミュージアムの福島大輔理事長には、利活用例も作成していただいた(P4)。このような魅力的な利活用例を提示することで販売促進を進めていきたい。

皆様も、個人用にご購入いただくとともに、周囲の博物館関係者等に販売の協力依頼をお願いします。







No.	火山名	英名	所在地	No.	火山名	英名	所在地
1	知床岳	Shiretoko-Iosan	北海道	57	磐梯山	Hakoneyama	神奈川県
2	御岳	Kawadake	北海道	58	伊豆東部火山群	Izu-Toku Volcanoes	静岡県
3	天冠山	Tenchozan	北海道	59	伊豆大島	Izu-Oshima	東京都
4	摩周	Maishu	北海道	60	利島	Teshima	東京都
5	アトナツアツ	Atanasupuri	北海道	61	新島	Nijima	東京都
6	蔵王	Okasandake	北海道	62	新島	Kawashima	東京都
7	蔵王	Makasandake	北海道	63	三宅島	Miyakojima	東京都
8	丸山	Maryama	北海道	64	御蔵島	Mikarajima	東京都
9	大雪山	Taishusann	北海道	65	八丈島	Hachijojima	東京都
10	十勝岳	Tokachidake	北海道	66	吾妻	Agashima	東京都
11	利根山	Rikitsan	北海道	67	ペリネース列島	Perineus Rocks	東京都
12	樽前山	Tsurumasan	北海道	68	御妻岳	Sumojima (Smith Rock)	東京都
13	恵徳山	Enjodake	北海道	69	伊豆大島	Izu-Torishima	東京都
14	倶利伽羅	Kuttara	北海道	70	網走	Sofuwan	東京都
15	有珠山	Utsun	北海道	71	西之島	Nishinoshima	東京都
16	羊山	Yetsutan	北海道	72	徳島	Kaikata Seamount	東京都
17	ニセコ	Niseko	北海道	73	徳島	Kaikata Seamount	東京都
18	北陸道駒ヶ岳	Hakkaido-Komagatake	北海道	74	噴火浅根	Funka Asane	東京都
19	恵山	Ezan	北海道	75	鏡石	Ito	東京都
20	噴火大島	Oshima-Oshima	北海道	76	北福地	Kita-Fukutekurai	東京都
21	恵山	Etzan	青森県	77	福徳ノ湯	Fukuteko-Okanaka	東京都
22	岩手山	Iwatsan	青森県	78	南日吉町	Misumi-Hiyoshi Seamount	東京都
23	八甲田山	Hakkaidasan	青森県	79	日光火山	Nikko Seamount	東京都
24	十勝	Towada	青森県・秋田県	80	三蔵山	Sanzon	島根県
25	秋田横山	Akita-Yokoyama	秋田県	81	阿武火山群	Abu Volcanoes	山口県
26	八幡平	Hachimanai	岩手県・秋田県	82	鶴見岳・御前岳	Tsurumidake and Gensadake	大分県
27	岩手山	Iwatsan	岩手県	83	由布岳	Yufudake	大分県
28	秋田駒ヶ岳	Akita-Komagatake	岩手県・秋田県	84	久草山	Kujusan	大分県
29	鳥海山	Chokai-san	秋田県・山形県	85	阿蘇山	Asosan	熊本県
30	霧島	Kurikamayama	岩手県・宮城県・秋田県	86	霧島	Uzunadake	長崎県
31	鳴子	Naruko	宮城県	87	飯江火山群	Fukae Volcanoes	長崎県
32	磐梯	Hijiiri	山形県	88	新島	Kirikujima	宮崎県・鹿児島県
33	蔵王	Zaasan (Zaasan)	宮城県・山形県	89	米久・古吉池	Yonemasu and Sumijiroki	鹿児島県
34	阿蘇山	Asamayama	山形県・福島県	90	霧島	Wakujiki	鹿児島県
35	安達太良山	Adatayama	福島県	91	磐梯	Sakurajima	鹿児島県
36	磐梯	Bendisan	福島県	92	南日・山川	Ihoda and Yamagawa	鹿児島県
37	磐梯	Nemazawa	福島県	93	御前	Kaimondake	鹿児島県
38	磐梯	Hirakigatake	福島県	94	霧島	Itoyama-Iajima	鹿児島県
39	磐梯	Narudake	福島県	95	口永良部島	Kuchinoerabujima	鹿児島県
40	高嶺山	Takaharuyama	福島県	96	口之島	Kuchinojima	鹿児島県
41	磐梯	Nantaisan	福島県	97	中之島	Nakanoshima	鹿児島県
42	日光火山	Nikko-Shiranezan	栃木県・群馬県	98	霧島	Sawaseojima	鹿児島県
43	赤松山	Akagisan	群馬県	99	霧島	Ie-Torishima	沖縄県
44	榛名山	Hachiman	群馬県	100	西表島北東部連火山	Sakurajima Volcano NNE of Iriomotejima	沖縄県
45	草津火山	Kusatsu-Shiranezan	群馬県	101	夜叉岳	Yasayake	鹿児島県
46	夜叉岳	Asayama	群馬県	102	飯山	Chiriyasan	鹿児島県
47	霧島	Yakudake	宮城県	103	霧島	Sakurajima	鹿児島県
48	霧島	Nigata-Yakayama	新潟県	104	磐梯	Osakayama	鹿児島県
49	磐梯	Miyakojima	新潟県	105	磐梯	Etsudo-Yakayama	鹿児島県
50	磐梯	Midagahara	新潟県	106	磐梯	Atanasupuri	鹿児島県
51	磐梯	Yakudake	新潟県・福島県	107	磐梯	Perineus	鹿児島県
52	アトナツアツ	Akutanayama	新潟県・福島県	108	磐梯	Kuridake	鹿児島県
53	磐梯	Naridake	新潟県・福島県	109	磐梯	Kuridake	鹿児島県
54	磐梯	Onokusan	新潟県・福島県	110	磐梯	Onokusan	鹿児島県
55	磐梯	Hakusan	石川県・岐阜県	111	磐梯	Tomariyama	鹿児島県
56	富士山	Fujisan	山梨県・静岡県				

VEI は Volcanic Explosivity Index という英語の略で、火山灰などの噴出量を目安に火山噴火の爆發性の規模を示す指標です。日本国では火山爆發指数と呼ばれることもあります。Newhall and Self (1982) により提案され、現在では世界中で広く使われています。ただし、もともと爆發的噴火を対象に導入された指標なので、溶岩流や溶岩ドームを噴出するだけの噴火には適用されません。VEI はもともと噴出量だけでなく、噴煙柱の高度などの複数の要素を目安に決定される指標ですが、上の表では、見かけの噴出量のみに基づいた産業技術総合研究所の1万年噴火イベントデータベースのデータを元に再計算しています。

VEI	噴出物総体積 (km <sup>3</sup> )	噴煙柱高度 (km)	火山名	所在地	噴火発生年	現象
0	0.00001~0.0001		硫黄島 御嶽山 秋田焼山	東京都(伊豆・小笠原群島) 長野県・岐阜県 秋田県	1957年 1991年 1997年	水蒸気噴火 水蒸気噴火 水蒸気噴火、地すべり
1	0.0001~0.001	0.1~1	十勝岳 伊豆東部火山群 有珠山	北海道 静岡県 北海道	1926年 1989年 2000年	水蒸気噴火、泥流、山体崩壊 マグマ水蒸気噴火、海底噴火 マグマ水蒸気噴火
2	0.001~0.01	1~5	日光白根山 磐梯山 安達太良山	栃木県・群馬県 福島県 福島県	1649年 1888年 1900年	水蒸気噴火 水蒸気噴火、泥流、山体崩壊 水蒸気噴火、火砕サージ
3	0.01~0.1	3~15	伊豆大島 三宅島 霧島(新燃岳)	東京都(伊豆・小笠原群島) 東京都(伊豆・小笠原群島) 宮崎県・鹿児島県	1986年 2000年 2011年	マグマ噴火、溶岩噴流、溶岩流、火砕物降下 マグマ噴火、火砕物降下、溶岩流、火砕サージ マグマ噴火、火砕物降下、溶岩流
4	0.1~1	10~25	浅間山 北海道駒ヶ岳 桜島	長野県・群馬県 北海道 鹿児島県	1783年 1929年 1914年	マグマ噴火、火砕物降下、火砕流、溶岩流、泥流、岩屑を伴った マグマ噴火、火砕物降下、火砕流、泥流 マグマ噴火、火砕物降下、溶岩流
5	1~10	>25	十和田 樺前山 富士山	青森県・秋田県 北海道 山梨県・静岡県	915年 16739年 1707年	マグマ噴火、火砕物降下、火砕サージ、火砕流、泥流 マグマ噴火、火砕物降下、火砕流 マグマ噴火、火砕物降下
6	10~100		摩周 クラカタク ピナツポ	北海道 インドネシア フィリピン	約7500年前 1883年 1991年	カルデラ噴火 カルデラ噴火 マグマ噴火
7	100~1000		阿蘇 鬼界 タンボラ	熊本県 鹿児島県 インドネシア	約87000年前 約7200年前 1815年	カルデラ噴火 カルデラ噴火 カルデラ噴火
8	1000~10000		タウポ 始良 トバ	ニュージーランド 鹿児島県 インドネシア	約25000年前 約29000年前 約75000年前	カルデラ噴火 カルデラ噴火 カルデラ噴火

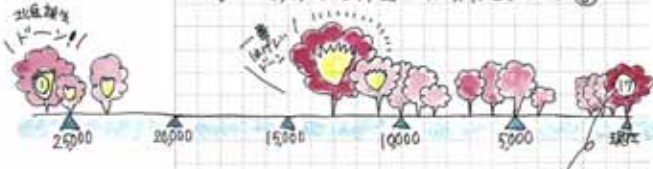


Search category ジオガイド Search field 桜島 (鹿児島)

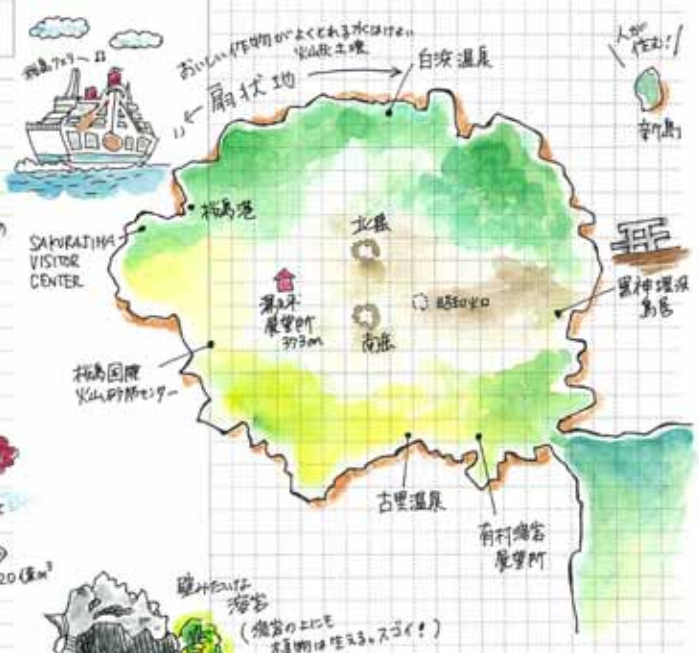
人口 約3700人 / 1,000世帯 (2020. 2月末)

- 標高 1117m (北岳と南岳のいる複合火山)
- 周囲 約55km (一般道約36km)
- 歴史
  - 北岳... 約2万6000年前に海底火山として活動がはじまる。5000年前に活動休止。中でも、約1万3000年前の噴火は規模が大きく、鹿児島市街地を1m、奥付全域で10cmの軽石が降りた!!
  - 南岳... 約4500年前から活動開始! 現現に至る今なお噴火中!

あわせて17回の大噴火をしている!!



《大正下噴火》  
噴出物総量約20億m<sup>3</sup>



大正の大噴火 (791-1914)  
1914年1月12日  
「島」だった桜島がこの大噴火によって、大隅半島と陸つぎになった。桜島と大隅半島の400mの距離と、最狭部100mは、溶岩で埋まった...  
黒神地域にわたる神社も、島居がたった1日で2mまで「軽石や火山灰で」埋まってしまった...  
山頂から火柱が立ち上る!!



- 2013年秋に「桜島・錦江湾ジオパーク」に認定。
- 日本の火山は111コ。
- 桜島はせせがれカラダ 外輪山にできた山頂
- 特産品は 桜島わかかん、桜島大根、本醤油、ピワカビ
- 1957年から登山禁止に。(800m 2km以内は登山禁止)

Search category 料理 Search field 桜島 (鹿児島)

桜島大根づくしX=ユー♪

★ Good POINT ★  
煮ごめしにくく  
シャキシャキ甘い!!



桜島大根の  
肩あげ

- ビニール袋に切りおろしニンニクを少し入油、スクワク粉にカットした大根を入れて10分-15分漬ける
- 片栗粉をまぶしてカラッと揚げます

セリ子(桜島大根とにんじんのなまきり)  
◎ 煮ごめしがあっておいしい◎

竹パのし油大さじ1杯、桜島大根おろし

セリ子大根用はCut中

- 桜島大根のポワッサンスープ
- 細切した大根に白だしを煮込み煮る
  - 豆乳を入れてフツフツと煮る

- 桜島大根のサラダ
- シャキシャキ歯ごたえ! 塩、お酢を少しおろし、お酢を少しおろし、お酢を少しおろし

- 桜島大根の千枚漬
- ◎ 桜島わかかんの皮で漬けたら爽やかな香りが!

- 桜島大根の春巻き
- 大根 500g
  - フィリング 4~50
  - 春巻の皮 10枚
  - だし汁 100g

- 桜島大根の旬は1月中旬~2月10日頃!
- ギネス記録 31.1kg! 毎年世界一「桜島大根コンテスト」あり
- 切り干し大根として保存することも可能!
- 冬にはお湯で煮て、12月~に干す習慣も!

理事会議事案  
大会委員会

令和2年5月16日(土)

## 報告事項

## 1. 2020年秋季大会

下記の通り準備が進んでいる（ただし、新型コロナウイルス感染状況により変更の可能性あり⇒5.）.  
近年の参加者増加傾向を踏まえ、**8日午前、10日午後も講演会場を確保。**

講演申し込み：7月初旬～8月5日（水）16時（郵送7月29日（水）必着）

期日：10月8日（木）-10日（土）（8-10講演，9交流会，6-7&10-12現地討論会，11公開講座等）

場所：名古屋大学東山キャンパス（名古屋市千種区）

宿泊地：名古屋市内

LOC：山岡耕春（責任者），前田裕太，及川輝樹，

現地討論会： 1）プレ**10月6日-8日** 御嶽山頂周辺（2泊3日），

2）ポスト**10月11-12日** 御嶽山麓周辺（1泊2日）

（参考：JpGU 7月12-16日@オンライン，CoV11:9月25-30日@クレタ，地震学会10月29-31日@那覇，鉱物科学会9月16-18日@東北大，地質学会9月9-11日@名古屋大）

## ●投稿受付

昨年度同様に Google フォームを利用する。原稿送信には Google に登録が必要。昨年度は特に問題なかった。

## ●予稿集

今年度も予稿集の pdf 化を行い，会員には無料でダウンロード可とする（従来の「火山」pdf と同様）。冊子体希望者には有償で予約販売を行う（2,000 円/冊）。いずれも昨年同様。

## ●事前参加登録

昨年度同様に Google フォームを利用。昨年度は特に問題なかった。

●参加費納入，予稿集購入，懇親会費納入…変更：会計上全て学会予算に組込（実施上の変更はなし）

参加費については，昨年度と同額の予定【4,000 円（学生・シニア 1,000 円，非会員 5,000 円）】。

★**クレジット決済については導入保留（引継ぎ案件）。**

●会場下見：チェックリストに従い，3月末に実施。設備等は良好。利便性よく，準備状況も順調。

●プログラム編成：委員負担大 ←今後検討必要。

（方針）本年はセッション提案は実施せず。編成会議は実施（8月初旬予定）。極力全体旅費を抑える場所またはオンライン開催見込。

## 2. 2021年秋季大会開催案（9月から変更なし）

引き続き準備をお願いしている。公募時に提出頂いた計画案の概要は以下の通り。

会期：2021年9月19日（日）-23日（木）

一般公開講座等：9月19日（日）

会場：東北大学川内キャンパス

現地討論会：A）東日本大震災被災地（9月19日），B）鳴子・鬼首・蔵王地域（9月23日）

（参考：地震学会10月？日@仙台，測地学会10月？@釧路？，このほか，2021年度他学会開催予定について，ご存知の情報があればお寄せください）

## 3. 2022年開催地決定の手続き等（延期の確認）

公募時期については昨年度より前倒ししたが，2022年以降の秋季大会の開催地・開催機関等の決定については，会場予約などの時期を見越して時期を先送りし，次のとおり進める。**赤字：先送り部分**

## &lt;2022年度秋季大会開催への立候補～実行委員会解散までの日程&gt;

2020年5月末まで 主催候補者への打診【複数が望ましい】

2020年7月半ば頃まで 主催候補者からの内諾～2020年8月下旬までに公募要項の作成



2020 年秋季大会前後 2020 年末	<b>公募開始</b> （応募者からの開催案の提出） 公募×切 大会委員会による審査・開催案順位づけ（理事会提出）。理事会による <b>決定</b> 。【推薦理由などを付す】
2021 年 5 月	<b>総会報告</b> → 実行委員長による大会開催準備開始
2021 年 7 月理事会	開催日程・実行委員*確定、 <b>実行委員長の大会委加入</b>
2021 年秋季大会	実行委員長による前大会の視察など
2021 年 10 月頃	補助金申請（公開講座のため；申請は学校教育委員会） -----実行委員による会場・懇親会・巡検等準備、各種委員会による催事準備-----
~2022 年（半年前）	後援・共催団体等の確定、必要に応じて現地下見
2022 年（4-5 ヶ月前）	「火山（2号）」に秋季大会案内原稿×切【LOC と大会委員会作成】・掲載
2022 年（3 ヶ月前）	投稿開始、企業展示受付、催事日程確定
2022 年（2 ヶ月前）	投稿×切、プログラム編成会議、学生発表審査員及び座長依頼
2022 年（1 ヶ月前）	予稿集完成・発送
2022 年秋季大会	開催（学術講演、公開講座、シンポジウム、巡検、懇親会）
2022 年（1 ヶ月後頃）	収支確認・報告書作成
2022 年（年末）	実行委員会解散（LOC 委員長のみ、大会委員として 2021 年 6 月末まで）

#### 4. 2020 年連合大会と CoV11 の日程延期

下記学会の日程が新型コロナウイルス感染拡大による影響で延期されている。

連合大会：2020/5/24 - 5/28⇒2020/7/12-16（オンライン），

CoV11：2020/5/23 - 5/27（クレタ島）⇒2020/9/25-30

#### 5. 新型コロナウイルス感染拡大による 2020 年秋季大会の開催形態・日程変更等について

標記について、1. の通り準備は進めているが、感染拡大終息は未だ見通しが効かない状況であり、あらゆるケースを想定する必要がある。当面、いくつかの重要期日を時限として、開催形態・日程の変更／継続／中止の判断をすべきであり、別紙のとおり、シナリオ整理を行った。名古屋での現地予定通りの日程で開催の場合（シナリオ A、B）、予稿集を pdf のみとすることで、予稿×切を 1 ヶ月程度延ばせる。10 月オンライン開催の場合も同様（シナリオ C；ただしオンライン開催の準備期間必要）。一方、11 月以降年度内開催の場合、その分の先送りが可能だが、名古屋現地開催は会場確保が困難と思われる。JpGU や CoV11 も形態・日程変更となっており、これらとの前後関係も念頭に、まずは投稿開始 7 月初めまでに通常開催の可否判断が必要。オンライン開催についても、実施経験がないまま、どのような方式を採用するのか判断が必要。最終的に中止（予稿のみも含む）の判断指針も必要。

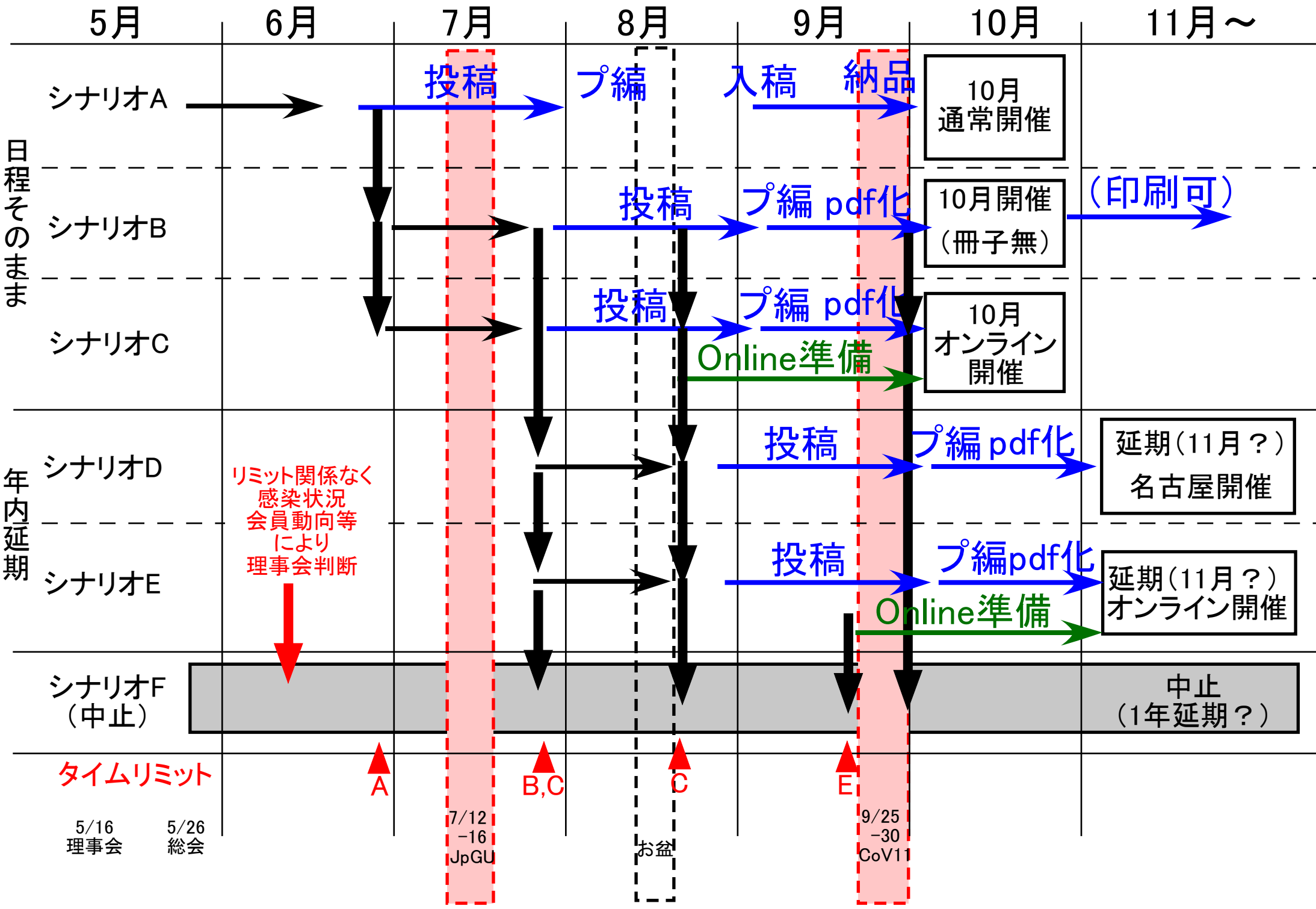
> 決定手続き方法について、理事のご意見伺いたい。

#### 6. 委員交替

2019 年度秋季大会が無事終了し、報告書作成等も終了したため、金子克哉委員が退任する（6 月末）。これに替わり、7 月から先日の公募で 2021 年度秋季大会の実行委員長となった東北大学の中村美千彦氏が着任する【次期申送事項】。

以上。





EPS 誌に関する報告（日本火山学会他学会担当）

2020年5月19日

市原美恵

## 1. 2020年度の分担金について

学会間覚書（別紙）が交された。2020年度の火山学会の分担金は、従来どおり20万円とすることで合意された。

## 2. 新編集長の選考について

各学会長により、新編集長候補者と選考委員が推薦され、審議の結果以下のとおり決定した

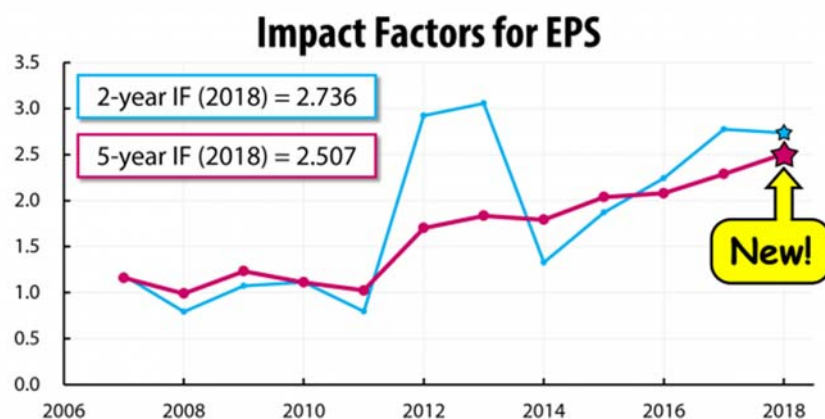
次期編集委員長：鷺谷威（日本測地学会推薦）

次期副編集委員長：能勢正仁（地球電磁気・地球惑星圏学会推薦）

加藤愛太郎（日本地震学会推薦）

## 3. 実績

6月発表予定の2019年IF推定値は2.1。引用数の高い特集号の減少が原因の一つと考えられる。

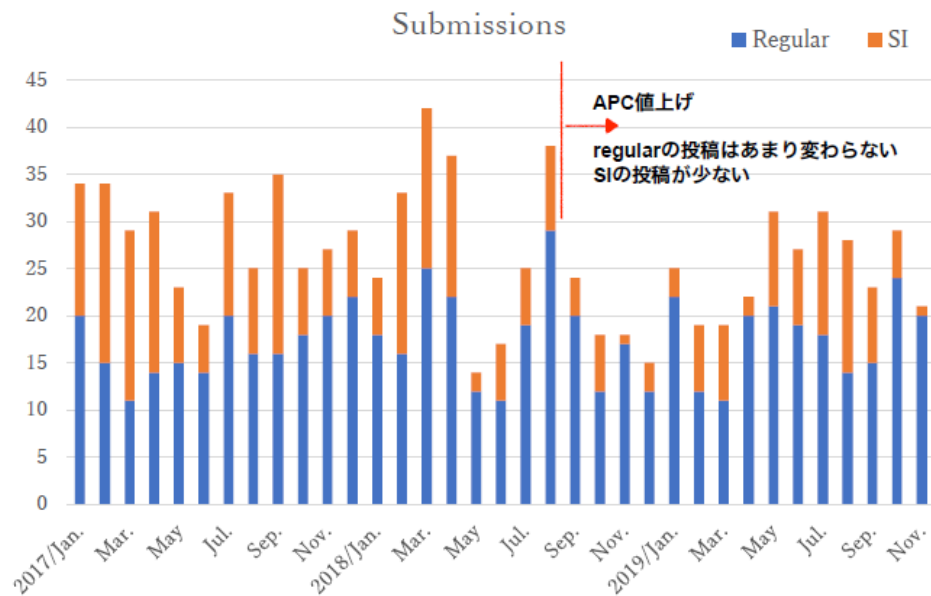


EPS 出版数・投稿数の推移

出版数 150 以上/年を目標

2019年 145 2014年以降最低

208 (2018), 175 (2017), 208 (2016), 208 (2015), 164 (2014)



火山学会関係の最近の特集号

投稿受付中

- Understanding phreatic eruptions - recent observations of Kusatsu-Shirane volcano and equivalents -

Deadline for submission: ~~30 June 2020~~ / Publication started: 13 May 2020

30 September 2020

出版終了

- Advancement of our knowledge on Aso volcano: Current activity and background  
Publication started: 6 February 2018/ Publication finished: 15 October 2019
- Towards forecasting phreatic eruptions: Examples from Hakone volcano and some global equivalents

Publication started: 6 December 2017/ Publication finished: 29 August 2019

要旨集作成・水蒸気噴火の国際ワークショップ（2020年1月15-16日）で配布

#### 4. 運営状況

2019年10月30日に、火山学会メーリングリストにより

「EPSの自立運営体制に向けた近況報告」（別紙）を案内

「EARTH, PLANETS AND SPACE」誌・学会間覚え書き

1997年4月19日制定

2019年1月23日改訂

2020年1月6日改訂

EPS 誌の発行等に関する補助等に関し、2020 年度について以下のごとく取り決める。

1. 各学会は、EPS 誌出版事業分担金を支払うことにより、EPS 誌の発行を支援する。EPS 誌が JGG 誌と JPE 誌の合同誌として発足した経緯等の諸事情を勘案し、各学会の金額を以下とする。

地球電磁気・地球惑星圏学会	150 万円
日本地震学会	100 万円
日本測地学会	20 万円
日本火山学会	20 万円
日本惑星科学会	20 万円

2. 2021 年度以降の分担金は、改めて調整する。
3. EPS 誌の財政展望等を考慮し、日本地震学会が 2019 年度に拠出した臨時分担金 100 万円については、2020 年度および 2021 年度の同会の通常分担金を各年度 50 万円減額することを以て、他 4 学会との均衡を図るものとする。なお、減額期間の修正が必要となる場合は別途協議する。

地球電磁気・地球惑星圏学会      会長      大村 善治

日本地震学会      会長      山岡 耕春

日本火山学会      会長      篠原 宏志

日本測地学会      会長      田部井 隆雄

日本惑星科学会      会長      中本 泰史

**EPS の自立運営体制に向けた状況報告（2019/10/29 5 学会配信依頼）**

題目：EPS の自立運営体制に向けた状況報告

○○学会の皆様

日頃より Earth, Planets and Space 誌の発展にご協力いただき誠に有難うございます。

JpGU を代表として「日本の地球惑星科学共同体による PEPS 誌・EPS 誌の国際情報発信強化で相乗効果を上げる取組」の科研費（研究成果公開促進費・国際情報発信強化（A））を申請しましたが、2019 年度より 5 年間ということでの採択に至りました。2018 年は単独で申請しましたが、不採択となりました。それ以前の 2013～2017 年度に EPS 誌のみで採択されていた科研費に比べると 10 分の 1 程度になりますが、科研費を使用した国際化に向けた発信力強化を再開できる運びとなりました。科研費の提案書に記載した目的に沿い、目標を達成すべく JpGU/PEPS と協力して進めていく予定です。

EPS 誌の財源は長らく、共同発行 5 学会の分担金からなる EPS 基金と科研費から構成されていました。しかしながら、科研費のような時限予算に強く依存した運営体制から脱却することは喫緊の課題でありました。2016 年頃より自立・安定した運営を目指して、EPS 誌運営委員会では議論を重ねてまいりましたが、恒常的な運営は、EPS 基金と論文出版費 APC の一部還元で財源を構成する方針に切替える決定を下しました。具体的な方策として、当初予定していた出版契約更新（2019 年 1 月）を前倒しし、2018 年 9 月に APC に関して以下の改革を行いました。一つ目は、Full Paper については 900 ユーロ、Express Letter については 540 ユーロであった APC を統一してかつ 1200 ユーロに引き上げ、その 20% を出版社より出版関連経費として還元を受けることにしました。つまり、出版数に応じた収入を EPS が得る契約にしました。二つ目は、投稿促進を目的とした 5 学会会員 APC 割引を、従前の科研費の一部を活用した大幅な割引から学会年会費に相当する 60 ユーロの割引に変更しました。加えて、非会員への割引は、廃止しました。

APC の改定から約 1 年が経過しましたが、Springer Nature 社からの還元見込みは、当初想定に沿って推移しており、単年度収支も黒字化に向かっています。また、旧出版契約から新契約への過渡期に懸念していた一時的な運営資金のショートも、出版契約更新を前倒しにしたことなどによる支出削減により回避しました。EPS 誌の自立運営体制の確立は、予定通り進んでいることをご報告申し上げます。

特集号の企画数や投稿数も増えており、より一層国際化を意識して、発信を進めて参ります。雑誌としての質を維持・向上させるため、編集委員会でも様々な取り組みがなされています。今後とも EPS 誌をどうぞよろしくお願い致します。

EPS 誌運営委員会

# The 4th field camp : 2019/10/28-11/2 @Tatun, Academia Sinica (Taipei), Taiwan



Participants :

S. Korea: lecturer 0 / Student 5  
Philippine: lecturer 0 / Student 2  
Singapore: lecturer 6 / Student 1  
Taiwan: lecturer 7 / Student 47  
Japan: lecturer 7 / Student 7

Total: lecturer 20 / Student 62



Lectures, Exercises & Poster session, and Field trip

General Symposium: for public

Field camp 4: Lectures, Exercises & Poster session, and Field trip

Focusing Topics:

- Phreatic eruption and its hazard management

Budget: Mostly supported by Academia Sinica, Taiwan

Date	Time	Lectures
10/29 (Tue)	09:00~12:00	Introduction: <ul style="list-style-type: none"> <li>Processes of phreatic eruption (Fidel Costa)</li> <li>Modeling (Tomofumi Kozono)</li> <li>Poster presentation</li> </ul>
	13:00~18:00	Geodetic analysis: <ul style="list-style-type: none"> <li>Geodetic observation around Tatun Volcano (Masayuki Murase)</li> <li>Analysis of geodetic data (InSAR, Tiltmeter, GNSS) (Yosuke Aoki)</li> <li>Poster presentation</li> </ul>
10/30 (Wen)	09:00~12:00	Seismic analysis: <ul style="list-style-type: none"> <li>Applied to Tatun seismic data (Benoit Taisne, Chiou Ting, Yosuke Aoki, Eisuke Fujita)</li> <li>Poster presentation</li> </ul>
	13:00~18:00	Infrasound analysis: <ul style="list-style-type: none"> <li>Applied to Tatun Volcano data (Benoit Taisne, Anna Perttu)</li> <li>Poster presentation</li> </ul>
10/31 (Thu)	08:00~17:00	Field trip around the Tatun Volcano Group: <ul style="list-style-type: none"> <li>Taiwan Volcano Observatory, TVO</li> <li>XiaoYouKeng fumarole</li> <li>Monitoring stations</li> <li>Outcrops of phreatic explosion deposit, Lahar deposit</li> <li>Stratigraphic columns of debris avalanche deposit</li> </ul>
11/1 (Fri)	09:00~12:00	Hazard: <ul style="list-style-type: none"> <li>Hazard map, ballistics simulation, etc. for the countermeasures to phreatic eruptions (Kae Tsunematsu, George Williams, Eisuke Fujita)</li> <li>Poster presentation</li> </ul>
	13:00~18:00	Ash: <ul style="list-style-type: none"> <li>Analysis of deposits, geochemical data analysis (Fidel Costa, Dini Nurfiani, Damia Bnet Morant, Takahiro Miwa)</li> <li>Poster presentation</li> </ul>
11/2 (Sat)	09:00~17:00	Extra field trip around Taipei

## 夢ロードマップの作成について

学術将来検討小委員会

西村太志（委員長）、下司信夫、石峯康浩、奥村聡

火山学会では、10年から30年程度の中長期的な将来展望と重要研究課題を、火山学分野の夢ロードマップとして取りまとめるために、2018年の冬に将来検討委員会のもとに「学術将来検討小委員会」が設置されました。60周年記念事業における火山学各分野における研究動向と展望の取りまとめを踏まえながら、今後学会が行うべき具体的施策を提案することを目的としています。また、学術会議における地球惑星科学分野の夢ロードマップや大型研究マスタープランなどに火山学分野の重要研究課題を反映させることも目的としております。

夢ロードマップの作成に当たっては、「火山」60周年記念特集号の著者および火山学会60周年記念事業ワーキンググループメンバーの方々にアンケートを実施しました。さらに理事の意見も取り入れながら、学術会議における地球惑星科学分野の夢ロードマップと同じ形式で案を作成しました。この案について2019年の秋季大会のあとに、会員の皆様からご意見をいただきました。今回、その意見をもとに修正した完成版を報告します。

P3-4 最終版

P6-7 2019年の案からの修正箇所を色付き文字で表示



夢ロードマップ最終版

## マグマ生成・火山噴火機構

岩石学・地質学・地球物理学  
地球化学・高圧科学

- ・火山の誕生・進化プロセスの全貌理解（海陸火山構造探査、海底火山調査）
- ・火道・浅部熱水系探査（マグマだまり探査、浅部熱水流動、浅部構造モデル）
- ・マグマ溜まり・噴火過程解明  
（マグマだまり分布、マグマ挙動モデル、噴出物リアルタイム分析  
UAV噴出物採取、噴煙観測、水蒸気爆発機構）

## 火山活動の観測

地球物理学・地球化学・  
岩石学・地質学

- ・火山活動自動評価・予測システム  
（AI,データ同化）
- ・火山灰降灰・土石流・溶岩流・火砕流予測
- ・火山探査ロボ・新技術による観測
- ・噴火事象系統樹の整備
- ・リアルタイム・ハザードマップ

- ・避難シミュレーション
- ・火山防災リテラシー普及
- ・レジリエントな社会構築
- ・耐噴火建築物の開発

社会・減災・防災  
災害科学・社会科学

## マグマ供給系全容の理解 火山活動の予測と災害軽減 火山による自然環境変動の理解

- ・火山灰編年学
- ・火山噴火と人類史
- ・火山灰土壌
- ・噴火と植生の相互作用
- ・地熱・温泉開発
- ・ジオパーク

## 地球・惑星の形成・進化

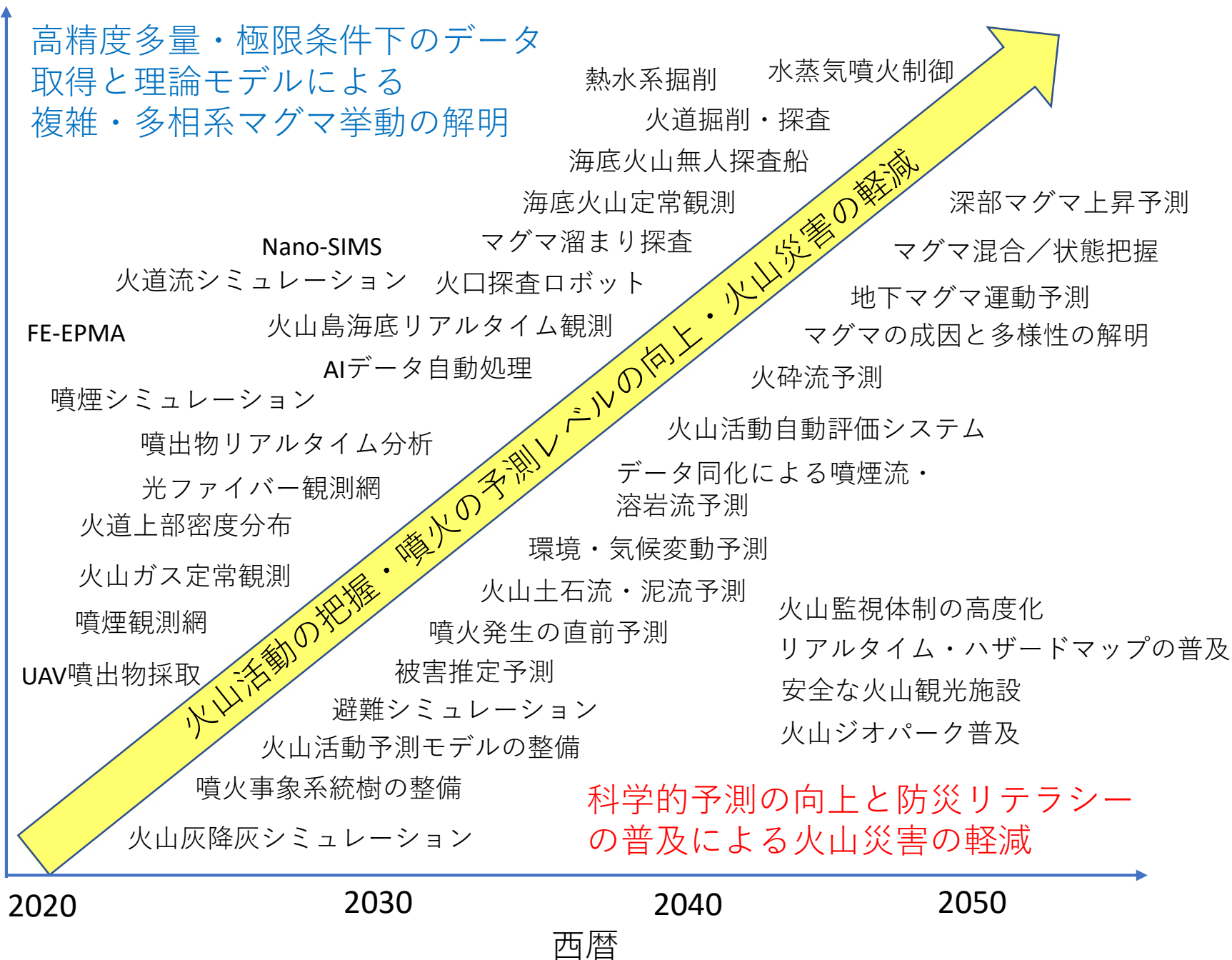
岩石学・地球物理学・高  
圧科学・惑星科学

- ・大気・海洋圏と火山噴火の相互作用
- ・気候変動と火山噴火
- ・地表環境形成プロセス
- ・生命の誕生と進化に対する火山活動の  
役割解明
- ・惑星探査・他天体の火成活動理解

## 火山による環境形成・ ハビタビリティ

環境科学・惑星科学・  
生命科学

観測・分析技術の向上と火山現象のモデル化



2019年11月の案からの修正箇所  
(色付きの文字が加筆修正箇所)

## マグマ生成・火山噴火機構

岩石学・地質学・地球物理学  
地球化学・高圧科学

- ・火山の誕生・進化プロセスの全貌理解（海陸火山構造**探査**、海底火山**調査**）
- ・火道・浅部熱水系探査（マグマだまり探査、浅部熱水流動、浅部構造モデル）
- ・マグマ溜まり・噴火過程解明  
（マグマだまり分布、マグマ挙動モデル、噴出物リアルタイム分析  
UAV噴出物採取、噴煙観測、水蒸気爆発機構）

## 火山活動の観測

地球物理学・地球化学・  
岩石学・地質学

- ・火山活動自動評価・予測システム  
（AI,データ同化）
- ・火山灰降灰・土石流・溶岩流・火砕流予測
- ・火山探査ロボ・新技術による観測
- ・噴火事象系統樹の整備
- ・リアルタイム・ハザードマップ

- ・避難シミュレーション
- ・火山防災リテラシー普及
- ・**レジリエント**な社会構築
- ・耐噴火建築物の開発

**社会・減災・防災**  
災害科学・社会科学

## マグマ供給系全容の理解 火山活動の予測と災害軽減 火山による**自然環境変動**の理解

- ・火山灰編年学
- ・火山噴火と人類史
- ・火山灰土壌
- ・噴火と植生の相互作用
- ・地熱・温泉開発
- ・ジオパーク

## 地球・惑星の形成・進化

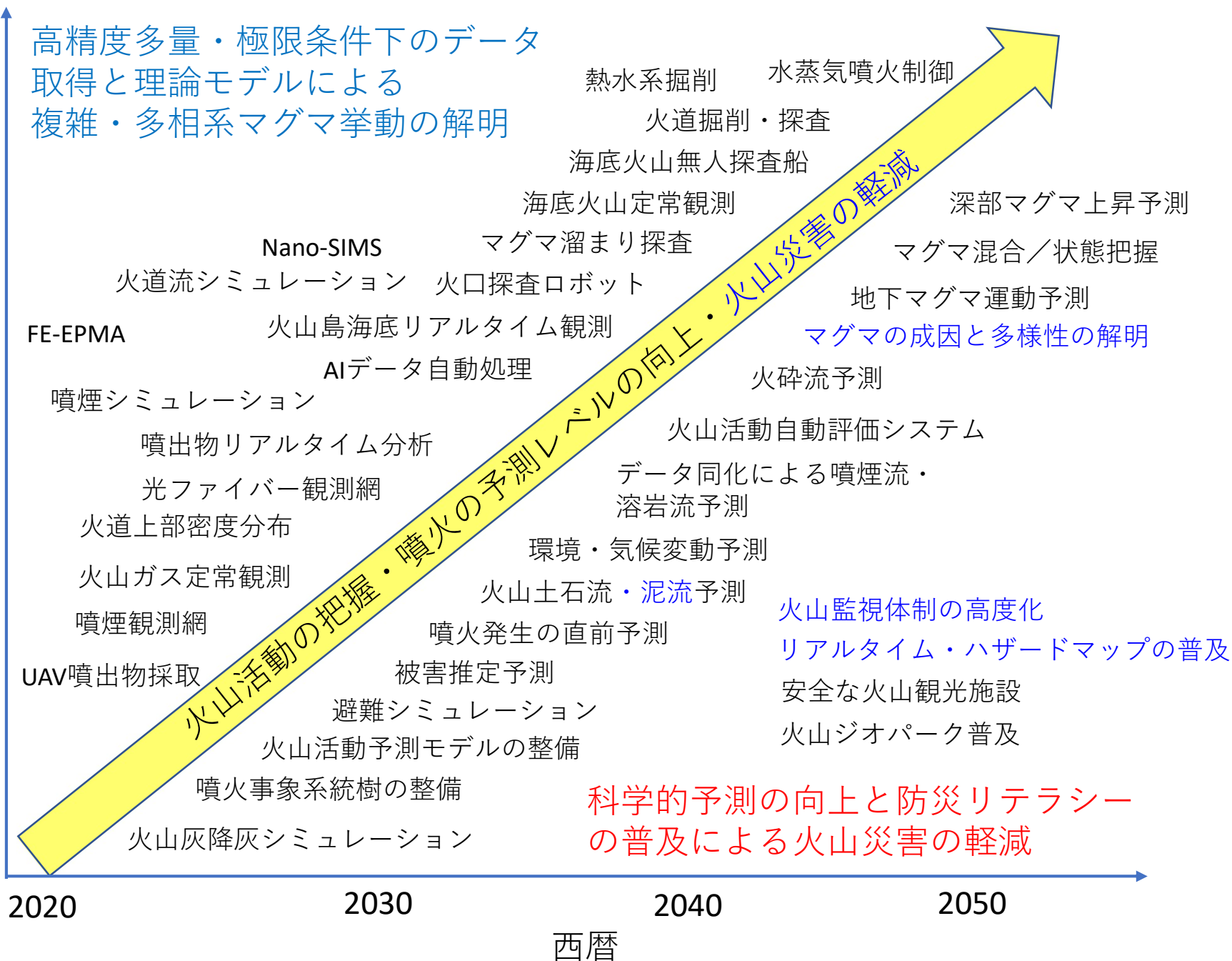
岩石学・地球物理学・高  
圧科学・惑星科学

- ・大気・海洋圏と火山噴火の相互作用
- ・気候変動と火山噴火
- ・地表環境形成プロセス
- ・生命の**誕生**と進化に対する火山活動の  
役割解明
- ・惑星探査・他天体の火成活動理解

## 火山による環境形成・ ハビタビリティ

環境科学・惑星科学・  
生命科学

観測・分析技術の向上と火山現象のモデル化



## 学校教育委員会

2020年5月 理事会資料

担当理事：青山

## 報告

## 1. 2020年度委員（予定：全員留任）

磐梯山噴火記念館	佐藤 公さん
北翔大学教育文化学部	横山 光さん
福岡大学理学部	三好雅也さん
秋田大学教育文化学部	林信太郎さん
神奈川県温泉地学研究所	萬年一剛さん
富山市科学博物館	増渕佳子さん

## 2. 教科書記述チェック作業

2019年秋の理事会でご指摘いただいた事項を委員会で共有し、「修正希望の重み（順位）付け」「修正案の作文」を準備したうえで、修正案について意見を募ることとした。まだ作業途中のため、理事会に諮る段階まで至っていない。

## 3. 地震火山こどもサマースクールの延期

今年度の第21回地震火山こどもサマースクールは、群馬県の浅間山北麓ジオパークでの開催に向けて浅間山ジオパーク推進協議会を実行委員会事務局とし火山学会関係者（日本大学の高橋先生ほか）が主体となって準備を進めてきたが、Cov-19で先行きが不透明となっていることから本年度の開催を断念し、同地域での来年度開催を目指す延期が決定した。

サマースクールへの分担金（火山学会は20万円）は今年度も予算案に組み込んでいただいているが、延期となったため基本的には来年度へ繰り越しとなる見込み。ただし、すでに実行委員会の準備作業で支出済（立替払）となっている事項があり、分担金の一部入金等を要請される可能性がある。実行委員会では「支出済の事項」「今年度の支出予定」「来年度の支出予定」の整理を進めているほか、サマースクールの外部資金（SECOM財団補助金）での対応可能性を検討している。

## 4. 2020年度秋季大会@名古屋の公開講座科研費について

名古屋大学での公開講座開催費（科研費：研究成果公開促進費（研究成果公开发表(B)））の採択が決定した。

## 火山防災委員会報告

2020/5/19

吉本充宏

## 活動報告

## (1) JpGU 環境災害対応委員会

2019年10月2日 14:30-17:00@首都大学大学・秋葉原サライトキャンパス

## ・ JpGU2020 のセッション提案

## 1. パブリックセッション (5/24(日))

「変化する気候下での風水害にどう取り組むか」(仮) 火山学会は関係なし

## 2. ユニオンセッション (平日)

未定。立てるとしても、「海洋プラスチック」、「森林火災」火山学会は関係なし

## 3. 国際セッション(AGU と共催, 平日)

"Recent severe geo-disasters and geo-science", or "Progress in mitigating recent severe geo-disasters" (仮) 最近の世界各地での激甚災害の実態と、それに対する防災に役立つ新技術(数値シミュレーション, ドローン, ドロップゾンデ等)を用いた科学研究の進展のようなイメージ。

## (2) 第8回火山防災協議会等連絡・連携会議

2019年11月18日(月)13:00-17:00@五反田メッセ M3 ホール

## (3) 第4回火山防災協議会に参画する専門家等の連携会議(専門家等連携会議)

2019年11月19日(火)10:00-12:00@中央合同庁舎第8号館4階会議室

## (4) 土木学会地盤工学セミナー「突発的な噴火に対して火山工学は何ができるか」

2019年12月20日(金)13:00-17:00@地盤工学会館

- ・ 御嶽山の突発的な噴火と被害(及川輝樹 産業技術総合研究所)
- ・ 本白根火山噴火によるロードウェイ被害(吉本充宏 山梨県富士山科学研究所)
- ・ 阿蘇山噴火による火口周辺建物被害調査(曾根孝行 竹中工務店)
- ・ 国内の噴石シェルターの種類と整備状況(佐々木寿 アジア航測)
- ・ シェルターの強度に関する衝突実験(山田浩之 防衛大学校)
- ・ 大雪後の降雨による大パylon構造物の崩壊(高橋徹 千葉大)
- ・ 首都圏の大規模噴火による火山灰被害想定(藤井敏嗣 山梨県富士山科学研究所)

## (5) 第10回内閣府火山防災勉強会



2020年1月20日(月)16:00-18:00@内閣府中央合同庁舎第8号館

- ・ 突発的な噴火と被害 御嶽山を例として 及川輝樹(産総研)
- ・ 元白根噴火の噴石被害 吉本充宏(富士山研)
- ・ IAVCEI 火山ハザードマップデータベース 宝田晋治(産総研)

(6)防災学術連携体

6-1：2019年度第3回幹事会

2020年2月26日(水)13:00-15:00@日本建築学会 会議室 (資料1)

- ・ 主な議題：防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」の開催について

6-2：防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」

2020年3月18日(水)12:30-17:30@日本学術会議講堂からインターネット中継

[http://janet-dr.com/060\\_event/20200317.html](http://janet-dr.com/060_event/20200317.html)に掲載

火山関係の講演

- ・ 日本火山学会「火山が起こす低頻度巨大災害」 山元孝広
- ・ 日本第四紀学会「過去200万年間における極低頻度巨大噴火の歴史と自然環境へのインパクト」 鈴木毅彦
- ・ 日本地理学会「巨大山体崩壊と流域地形環境変化」 須貝俊彦
- ・ 日本地質学会「十和田火山における想定大規模噴火と社会対応の問題点」 林信太郎

6-3：[市民への緊急メッセージ「感染症と自然災害の複合災害に備えて下さい」](http://janet-dr.com/070_seimei/071_seimei200501.html)  
(防災学術連携体 幹事会)(2020/5/1) (資料2)

[http://janet-dr.com/070\\_seimei/071\\_seimei200501.html](http://janet-dr.com/070_seimei/071_seimei200501.html)

6-4：2020年度第1回幹事会

2020年5月7日(木)13:00-15:15@Web電子会議 (資料3)

- ・ 2020年度総会:書面による決議+Web会議(2020年7月15日)
- ・ 第3回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会 中止
- ・ 2011年東日本大震災10周年事業 令和3年1月7日(木)または14日(木)@東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂
- ・ 2020年度の防災推進国民大会出展テーマ「感染症拡大と自然災害の複合災害」
- ・ 幹事学会:建築学会から日本災害医学会

## 防災学術連携体 2019年度第3回幹事会 議事録(案)

日時：2020年2月26日(水) 13時～15時

場所：日本建築学会 会議室

出席者：米田代表幹事、赤星・加藤(小井土副代表幹事代理)、和田運営幹事、依田運営幹事、田村事務局長、小野寺事務局長、宇根、瀬上、高橋(幸)、東畑、永野、山本(あ)\*、山本(佳)、吉本の各幹事、榎本、中川、麓の各事務局 (\*：電子会議による参加)

### 議事次第

1. 前回議事録(案)の確認(資料1)
2. 日本学術会議公開シンポジウム「令和元年台風第19号に関する緊急報告会」(12月24日開催)報告(資料2-1、2-2)
3. 第9回防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」(3月18日)について(資料3)
4. 第3回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会(7月15日)について(資料4)
5. 2011年東日本大震災10周年事業について(資料5)
6. 2020年度の防災推進国民大会について(資料6-1、6-2、6-3)
7. 幹事の交代ルールについて(資料7)
8. 2020年度の事業計画、活動スケジュール・体制について(資料8-1、8-2、8-3、8-4-1、8-4-2)
9. その他(各種情報など)(資料9-1、9-2)

### 【議事】

#### 1. 前回議事録(案)の確認

資料1に基づき前回議事録の確認を行った。

#### 2. 日本学術会議公開シンポジウム「令和元年台風第19号に関する緊急報告会」(12月24日開催)報告

田村事務局長より、資料2-1、2-2に基づき、12月24日に開催した標記シンポジウムについて開催報告があった(参加者720名、報道関係者14社23名、大阪・常翔ホールで同時中継を実施)。

米田代表幹事より、本シンポジウムは日本学術会議の外部評価委員から高い評価を受けたことの報告があった。

### 3. 第9回防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」(3月18日)について

田村事務局長より、資料3に基づき、標記シンポジウムの開催概要について説明があった。永野幹事より、別途サテライト会場、YouTubeでの同時配信を検討中との報告があった。

なお、新型コロナウイルスへの対策として、「都主催イベントの取り扱いについて」(2/22～3/15の開催自粛)、政府の方針(今後2週間程度の開催自粛)等を踏まえ、現時点では開催を前提とするが、開催一週間前(3/11)に改めて開催の可否を判断し、開催するのであれば発表者や参加者に向けて開催方針と注意喚起をメールで知らせることとした。

<意見交換>

- ・感染リスクを低減するための方策をいろいろ考えておくべきだ。
- ・無観客での開催も検討してはどうか。
- ・状況によっては中止もありうるので代替手段も検討し、その場合は速やかに連絡することを予め参加者に伝えてはどうか。
- ・細かく書きすぎると状況が変わるごとに書き替えが生じ、煩雑となる。
- ・症状がある方は来会を控えてほしい旨を追記されたい。
- ・中止や延期をいつどこでどう判断するか、決めておきたい。最終案内を出すのが開催一週間前なら、その前に決断する必要がある。
- ・政府や東京都が自粛期間を延長した場合は、開催の判断を出すことは難しだろう。
- ・自粛の対象は大規模イベントなので、YouTubeなどを併用して会場の来会者を縮小すれば開催できるのではないか。
- ・YouTubeで配信された動画は後々も再生可能となる、ということを発表者に予め理解してもらう必要がある。

### 4. 第3回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会(7月15日)について

依田運営幹事より、資料4に基づき、標記連絡会の企画概要について説明があり、原案を承認した。発表学会は6学会をめぐり公募することとし、応募が多い場合は資料提出のみの発表方式も検討することとした。

<意見交換>

- ・省庁の発表を優先したいので、学会の発表は絞る方向で検討したい。
- ・発表時間は最低でも10分はほしい。砂防関係の学会にはぜひ発表いただきたい。

### 5. 2011年東日本大震災10周年事業について

和田運営幹事より、資料5に基づき、標記企画テーマを「東日本大震災からの十年とこれから」としたことの概要説明があり、今後検討を継続することとした。

<意見交換>

- ・この事業は、人文系学会の要請も考慮して企画したものである。東日本大震災のアーカイブをつくっている学会もあるので、各学会の記録をまとめて冊子にしたい。
- ・連携委員には早めに案内して準備を依頼する。「共同声明」を出すかどうかは懸案事項だが、57学会の理事会承認を経るうち内容が薄まっていくことが懸念される。

- ・緊急的な声明であれば「幹事会声明」でもよいのではないかと。

## 6. 2020年度の防災推進国民大会について

田村事務局長より、2020年度の防災推進国民大会の開催概要について説明があり（まだ非公開）、応募のためのテーマ案（2案）について説明があった。意見交換の結果、第1案をベースに応募案を作成することとし、5月の幹事会で議論のうえ応募することとした。

<意見交換>

- ・多くの学会が応募しやすいよう幅広いテーマのほうが良い。
- ・避難に焦点を絞るより、まちや都市のあり方を俯瞰的に考える第1案のほうがよい
- ・時間が1時間半しかない。発表はせいぜい4～5学会か。応募状況によってはお断りを入れざるをえない。あるいは、ポスターセッションはないのでブースを借りて並べるくらいか。資料の当日配布は可能かもしれない。

## 7. 幹事の交代ルールについて

田村事務局長より、幹事の交代ルールの方針案について説明があった。多くの学会から参加を得ることを主眼とし、①代表幹事・副代表幹事が2年ごとにメンバーの見直しを行うこと、②見直しにあたっては「特任会員からの幹事は全体の半分以下とする／大規模学会からは定常的に参加いただく／分野のバランスにも配慮する」に配慮すること、を基本とする方針案について確認され、次回幹事会で具体案を審議することとした。

<意見交換>

- ・実際集まるのは幹事だけとし、電子会議での参加を自由参加にしてはどうか。
- ・2年で交代していくサイクルは妥当である。

## 8. 2020年度の事業計画、活動スケジュール・体制について

田村事務局長より、事業計画、活動スケジュールについて説明があり、承認された。また特任会員の追加、新規学会の入会の案が示され、下記のとおり承認された。

- ・特任会員の追加 山本佳世子氏（日本学術会議連携会員、電気通信大学教授）
- ・新規学会の入会 一般社団法人日本航空宇宙学会

## 9. その他：各種情報などについて

和田運営幹事より、資料5-1、5-2に基づき、本年2月に開催された日本災害医学会総会・学術集会の「防災学術連携体特別セッション：これでいいのか、災害情報の活用！」、本年5月に開催される地球惑星科学連合大会の「パブリックセッション：変化する気候下での強風災害にどう取り組むか」について紹介があった。

次回幹事会 5月7日（水）13時～15時 ~~東京医科歯科大学~~ →電子会議に変更

以上

（文責：事務局・小野寺）

2020年5月1日発表

## 市民への緊急メッセージ「感染症と自然災害の複合災害に備えて下さい」

防災学術連携体 幹事会

新型コロナウイルスの感染について予断を許さない状況が続いています。この感染症への対策を進めつつ、自然災害の発生による複合災害にも警戒が必要です。本格的な雨季を迎える前に、災害時の心構えを市民の皆様にお伝えいたします。

是非、ご一読いただき、複合災害の発生に備えて下さい。

### 1 感染症と自然災害の複合災害のリスクが高まっています

- ・新型コロナウイルスの感染拡大は日本全国、全世界に及んでいます。近年毎年のように起こっている自然災害が、今年も日本のどこかで起きれば、その地域は感染症と自然災害による複合災害に襲われることとなります。これが現実になると、オーバーシュート(医療許容量を超える感染者の爆発的増加)の可能性が高くなるなど、極めて難しい状況になります。
- ・複合災害の危険性を軽減するために、あなたのまちのハザードマップや地域防災計画などを参考にして、地震・火山災害、河川の氾濫や土砂災害などの危険性と避難の必要性について、今のうちに自ら確認して下さい。
- ・特に、自然災害に見舞われた地域では、ウイルス感染の爆発的拡大を防ぐため、被災者や自主防災組織、ボランティア、自治体職員、医療・福祉関係者などへの十分な配慮が求められます。高齢者や体の不自由な方への支援も必須です。

### 2 感染リスクを考慮した避難が必要です

- ・災害発生時には公的避難所が開設されますが、ウイルス感染のリスクが高い現在、従来とは避難の方法を変えなければなりません。
- ・災害発生時には、公的避難所のウイルス感染対策をとって下さい。避難所の数を増やし、学校では体育館だけでなく教室も使い、避難者間のスペースを確保し、ついたてを設置する、消毒液などの備品を整備するなどの対応が必要となります。さらに感染者、感染の疑いのある人がいる場合には、建物を分けるなど隔離のための対策も必要です。政府および都道府県・市町村の関係者は、連携して準備して下さい。住民の方はこれに協力して下さい。
- ・避難が必要になる地域の方は、近くの避難場所をあらかじめ決めておきましょう。必ずしも公的避難所である必要はありません。より安全な近くの親戚や知人の家などを自主避難先としてお願いしておきましょう。また、近隣の方で相談して、その地区の頑丈なビルの上層階を避難場所とすることも有効です。
- ・自宅で居住が継続できる場合は、自宅避難をしましょう。その場合、食料や水などを備蓄しておく必要があります。ただし、自宅避難が可能かどうかは、災害の種類や規模によって異なります。
- ・災害時の感染防止対策について、自主防災組織や町内会で相談しておきましょう。

- ・避難が必要になる地域では、自主防災組織や町内会が、公的避難所を利用する予定の方を把握し、その人数と情報を、予め市町村に伝えておくことが「3密」を避けるために重要です。

### 3 地震・火山災害との複合災害に備えましょう

- ・日本列島は4つのプレートの衝突部にあり、世界の地震の10%、世界の活火山の7%が日本に集中しています。今までのように、大地震は突然襲ってくることを忘れないで下さい。
- ・地震・津波、火山噴火などによる災害が発生した場合も想定し、複合災害への備えをこれまで以上に進めておく必要があります。身近なことでは、地震の揺れで家具が転倒しないように壁に固定する、防災用の備品を確認する、津波に対する避難路・避難先を確認するなど、これまで指摘されている防災対策のうち可能なものから少しずつでも進めて下さい。

### 4 気象災害との複合災害に備えましょう

- ・5月の大型連休明けには沖縄が梅雨入りの時期を迎え、その後、夏から秋にかけて大雨・猛暑・台風などによる気象災害が全国的に多発する季節になります。
- ・地球温暖化による気候変動の顕在化に伴い、わが国では豪雨の頻度や強度が長期的に増大する傾向にあります。一昨年の西日本豪雨(平成30年7月豪雨)や昨年の東日本台風(台風19号)など、近年多くの地域が広域豪雨による甚大な水害、土砂災害に見舞われています。今年の夏から秋にかけても気象災害の発生に備えなければなりません。最新の気象情報や自治体などから発表される避難情報を常に確認して下さい。
- ・防災用の備品を確認する、洪水氾濫や土砂災害に対する避難路・避難先を確認するなど、これまで指摘されている防災対策のうち可能なものから少しずつでも進めて下さい。
- ・気象災害で避難勧告・避難指示が出された場合には、命を守るため、あらかじめ考えていた場所に、躊躇なく避難して下さい。

### 5 熱中症への対策も必要です

- ・気象庁からこの夏は平年より気温が高くなるという予報が出されており、梅雨明け後は熱中症対策が必要となります。熱中症により基礎体力が衰えると、ウイルス感染者の重症化のリスクが高まります。暑さに負けないように、健康維持に心がけるとともに、扇風機や空調設備の整備もできる範囲で早い時期に準備しておきましょう。

現在、市民および医療・行政関係の皆様は、感染拡大の防止に精一杯のご努力をされていることと思います。加えて、現実複合災害発生危機が差し迫っています。被害軽減のため、できることから備えを始めて下さい。

## 防災学術連携体 幹事会

代表幹事	米田雅子	日本学術会議会員、防災減災学術連携委員会委員長
代表幹事	古谷誠章	日本建築学会前会長
副代表幹事	目黒公郎	日本学術会議連携会員、地域安全学会会長、 日本自然災害学会会長、日本地震工学会元会長
副代表幹事	小井土雄一	日本災害医学会前代表理事
運営幹事	和田 章	日本学術会議連携会員、日本建築学会元会長
運営幹事	依田照彦	日本学術会議連携会員
事務局長・幹事	田村和夫	日本学術会議連携会員
事務局長・幹事	小野寺篤	日本建築学会事務局長代理
幹事	宇根 寛	日本地図学会評議員
幹事	小松利光	日本学術会議連携会員
幹事	執印康裕	砂防学会理事
幹事	瀬上哲秀	日本気象学会副理事長
幹事	高橋和雄	日本自然災害学会元会長
幹事	高橋幸弘	日本地球惑星科学連合代議員
幹事	高橋良和	日本学術会議連携会員
幹事	寶 馨	日本学術会議連携会員、日本自然災害学会前会長、 水文・水資源学会会長
幹事	塚田幸広	土木学会専務理事
幹事	永野正行	日本学術会議連携会員
幹事	東畑郁生	日本学術会議連携会員、地盤工学会元会長
幹事	松島信一	日本地震学会理事、日本自然災害学会理事
幹事	山本あい子	日本学術会議連携会員、日本災害看護学会理事
幹事	山本佳世子	日本学術会議連携会員、日本計画行政学会常務理事
幹事	吉本充宏	日本火山学会理事
監事	森口祐一	日本学術会議連携会員
協力	中村 尚	日本学術会議会員、気象庁異常気象分析検討会会長

(防災学術連携体とは)

防災減災・災害復興に関わる58学会のネットワークです。防災に関わる多分野の学会が、日本学術会議を要として集まり、学会の連携を進め、緊急事態時に学会間の緊密な連絡がとれるよう備えています。

<http://janet-dr.com/>

(防災学術連携体 事務局)

主担当学会 日本建築学会 防災学術連携体担当 榎本 和正

〒108-8414 東京都港区芝 5 丁目 26 番 20 号 enomoto@ajj.or.jp 03-3456-2057

## 防災学術連携体 2020年度第1回幹事会 議事録(案)

日時：2020年5月7日(木) 13時～15時15分

場所：Web電子会議(Zoomシステムによる)

出席者：米田代表幹事、古谷代表幹事、小井土副代表幹事、目黒副代表幹事、  
和田運営幹事、依田運営幹事、田村事務局長、小野寺事務局長、  
宇根、小松、執印、瀬上、高橋(幸)、高橋(良)、寶、塚田、東畑、永野、松島、山本(あ)、  
山本(佳)、吉本の各幹事、森口監事、  
大友、近藤(久)(日本災害医学会事務局かさい様が代理出席)、加藤、森本、吉田、吾妻の  
各オブザーバー  
榎本、中川、麓、小野口の各事務局

## 議事次第

1. 前回議事録(案)の確認 (資料1)
2. 第9回防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」(3月18日開催)報告  
(資料2-1、2-2、2-3)
3. 市民への緊急メッセージについて (資料3)
4. 第3回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会(7月15日)について
5. 2011年東日本大震災10周年事業について (資料4)
6. 2020年度の防災推進国民大会について (資料5-1、5-2)
7. 総会の進め方について (資料6-1、6-2)
8. 幹事・監事の退任・選出について (資料7)
9. 2019年度事業報告、2020年度事業計画、活動スケジュール(資料8-1、8-2、8-3)
10. 2019年度収支報告、2020年度収支予算案について (資料9-1、9-2)
11. その他(会員学会からの防災減災関連情報の提供・委員会活動紹介情報、NHKへのコメント提供者リストの更新、その他)

## 配付資料

- |       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 資料1   | 前回議事録(案)                      |
| 資料2-1 | シンポジウム等の概要について(事後報告)          |
| 資料2-2 | 低頻度巨大災害シンポジウムちらし              |
| 資料2-3 | 建設通信記事                        |
| 資料3   | 緊急メッセージ「感染症と自然災害の複合災害に備えて下さい」 |
| 資料4   | 日本学術フォーラム・防災学術連携シンポジウム(案)     |
| 資料5-1 | ぼうさいこくたい2020への応募計画案           |
| 資料5-2 | ぼうさいこくたい2020出典公募の案内           |
| 資料6-1 | 2020年度防災学術連携体 総会の開催方法について(案)  |



- 資料 6-2 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う公益法人の運営に関するお知らせ  
資料 7 幹事・監事の退任・選出について  
資料 8-1 2019 年度事業報告（案）  
資料 8-2 2020 年度事業計画（案）  
資料 8-3 2019 年度-2020 年度事業計画スケジュール（案）  
資料 9-1, 9-2 2019 年度収支報告書（案）、2020 年度収支予算（案）  
参考資料 1 第 3 回防災に関する学術会議・学協会・府省庁の連絡会（仮案）

## 【議事】

### 1. 前回議事録（案）の確認

小野寺事務局長より、資料 1 に基づき前回議事録の確認を行った。

米田代表幹事より、第 9 回防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」が 3 月 18 日に、防災減災学術連携委員会の議論を踏まえて、無聴衆の会場で開催され、YouTube にてインターネット中継が行われたことの詳細について説明があった。

### 2. 第 9 回防災学術連携シンポジウム「低頻度巨大災害を考える」（3 月 18 日開催）報告

田村事務局長より、資料 2-1 に基づき、3 月 18 日に開催した標記シンポジウムについて、日本学術会議の協力をいただきインターネット中継が行われて、マスコミにもとりあげられたこと開催報告があった（講演者・関係者：30 名、報道関係：22 名、インターネット中継（YouTube）：視聴者：400 名、アクセス回数（当日分）：2400 名）

### 3. 市民への緊急メッセージについて

米田代表幹事より、資料 3 に基づき、市民への緊急メッセージ「感染症と自然災害の複合災害に備えて下さい」を、防災学術連携体の幹事名で 5 月 1 日に発信し、NHK やテレビ朝日による放映を始め、Japan Times やその他多くのメディアにとりあげられたことについて説明があり、短期間で幹事による有意義な意見交換をしてまとめられたことについて謝意が示された。本緊急メッセージの発信は小松幹事から発案され、日本気象学会の中村尚先生とも相談した上で、事務局で案をつくり、幹事の皆様の熱心な意見交換を行ってまとめられたこと説明もあった。また小松幹事より、今後の豪雨災害への備えを進められるように提案されたこと説明があった。

これに対し、多くの幹事より、タイミング良くスムーズに、わかりやすい内容の緊急メッセージが発信できたとの感想・意見が述べられた。

本緊急メッセージに関連して、以下に示すような意見・コメント・情報提供が参加者よりあった。

<意見・コメント・情報提供>

- ・発信対象が明確になってよかった。
- ・今後水害などが発生し、複合災害となった時に避難が遅れることが懸念であったが、避難

所の運営と合わせたよい提言を出すことができた。

- ・英語版もつくとよい。(⇒ 寶幹事に案をつくっていただく)
- ・一般市民に加え、行政へのメッセージ発信も重要。
- ・内閣府からも、避難所における対応に関する発信が4月1日、7日に出されていたが、実際に現場で徹底されるかが重要であり、今回の発信は社会全体への展開という意味で有効だった。
  - ⇒ 内閣府の防災担当にはメッセージ発信のことを事前に伝えてある。(米田代表幹事)
- ・テレビ朝日より避難所に詳しい方を教えて欲しい旨の問い合わせが米田代表幹事にあった。これに対し、以下の情報が提供された。
  - ⇒ 日本災害看護学会より、理事長の酒井明子氏(福井大学)が紹介された。
    - 日本災害医学会より、人と防災未来センターの高岡誠子氏の情報が紹介された。
- ・3年前の豪雨災害を経験した福岡県朝倉市にて、避難所の数を2倍にして担当者数を1.5倍にしたとの報道が今朝あった。
- ・「市民」という用語は相手によっては注意して使う必要がある。
- ・建築として、病院・ホテル・高齢者施設・住宅などの空間について、感染症拡大防止のことなどを日頃から考えていくことも今後は重要。
- ・市民が正確な知識を共有することが重要で、そのために学術界の貢献が必要。
- ・できることから進めていくのが良い。
- ・新型コロナウイルス感染症は感染していても症状がない方がいるため、医療施設としては一般患者の入院時対応・手続きなど難しい点がある。避難所でも同様のことを考慮する必要がある。
- ・頻度は高くないが、火山噴火時には救急車などが動けない事態も考えられる。
- ・ハザードマップを確認することの重要性を改めて伝えたい。
- ・水害に対して、社会システムのソフト対策は重要。
- ・停電などインフラの停止が起きた時に何ができるかを考えておくことが必要。
- ・現在構内に入れないが避難所に指定されている学校もあり、憂慮している。地域差もある。
- ・マスクには心理的効果もあるのではないかと。
- ・避難時の公共交通の問題も課題である。
- ・市民への情報発信時など、どのような表現をとるかが重要であり、多様な分野の方々の協働は有効。
- ・避難所の体制の問題に加えて、避難しなくてもすむ場合をうまく伝えるための方策が必要。
- ・自主防災組織や町内会の役割も重要であり、今回のメッセージに入れてある。

#### 4. 第3回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会(7月15日)について

田村事務局長より、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策が進められている現在の状況下で、表記連絡会を行うことが困難なため、内閣府の防災担当と打合せを行い、今回は中止とし、後日改めて開催を検討することが説明された。米田代表幹事からも残念だが

今回は開催を断念せざるを得ない、との考えが示された。

## 5. 2011年東日本大震災10周年事業について

和田運営幹事より、資料4に基づき、標記事業の計画について、原子力発電所事故の記載を入れたこと、開催場所は東京医科歯科大学の鈴木章夫記念講堂での開催の可能性を検討していること、開催日は令和3年1月7日(木)または14日(木)に開催予定とすることなどについて、説明があった。各学会からの寄稿(A\$版2ページ程度)を集めて冊子を印刷することを考えており、ホームページにも掲載してプリントできるようにしたいとの米田代表幹事の補足があった。またシンポジウム当日に向けては、各学会からは発表あるいは資料提供(寄稿に比べて詳細な資料)をしていただくことを考えている。また田村事務局長より、今後各学会に本企画案を提示して、意見を集め、7月までに各会員学会へ正式な案内を出すというスケジュール案が示され、確認された。

これに対し、現在示されている内容は盛りだくさんなので、東日本大震災の後にどう変わったのか、後の災害時にどう活かされたのか、などの観点を入れて各学会に募集をかけるとよいとの意見があった。

## 6. 2020年度の防災推進国民大会について

田村事務局長より、資料5-1に基づき、2020年度の防災推進国民大会事務局からの出展者公募が予定通りの内容で行われていることの説明があり、これに対する応募計画とスケジュールについての説明と、出展申込書の内容の一部についての確認があった。スケジュールとしては、5月20日までに応募して、ぼうさいこくたい事務局より採否の返信が6月10日までにあった後、各学会に講演依頼を出して7月にプログラム案をまとめる計画でいる。講演内容のイメージ案には「感染症拡大と自然災害の複合災害」も含めてあるが、全体のテーマイメージは前回幹事会に提出したものと大きくは変えていない。ただし、今後の社会情勢やぼうさいこくたい事務局の方針に応じて、最終的には内容も調整していく方針が説明され、確認された。

テーマ名を微修正して、申請時には「あなたのまちの安全と防災の備えを知ろう」とすることになった。なお、出展申込書の内容のうち、近藤久禎先生の所属は「国立病院機構本部DMAT事務局」に変更になったのでこれを修正する。

## 7. 総会の進め方について

田村事務局長より、資料6-1、6-2に基づき、今年度の総会を書面による決議+Web会議による内容確認・意見交換を行う方法によることの提案があった。

この結果、議案内容を事前に幹事で確認した後に、会員に送付して6月中に書面議決書(PDF、FAX、郵便のいずれか)を事務局に送付していただき、議決結果を代表幹事が確認して、6月30日に会員に報告する手順が確認された。なお役員幹事は、その後幹事会を開催して決定する。

また議決内容に関する情報交換と意見交換会を7月15日にWeb会議(2時間程度)にて

開催することが提案された。これに対して、当日スケジュールの都合が悪い学会がある可能性が指摘されたが、このことも考慮した上で7月15日に開催することを基本として、再度事務局にて日程を決定することとされた。

#### 8. 幹事・監事の退任・選出について

田村事務局長より、資料7に基づき、幹事・監事の退任・選出のルールと幹事会への会員参加のオープン化について提案があった。また次年度の幹事・監事の候補者リスト（案）が示された。次年度の候補者は、母体学会や本人の意向も踏まえて、代表幹事・副代表幹事にて決定され、総会にて選出されることになる。

最後に、幹事を退任・新任される予定の皆様より挨拶があった。

#### 9. 2019年度事業報告、2020年度事業計画、活動スケジュール

2019年度事業報告、2020年度事業計画、活動スケジュールについて、資料8-1、8-2、8-3に基づき、小野寺事務局長と田村事務局長より説明があり、確認された。

#### 10. 2019年度収支報告、2020年度収支予算案について

森口監事より、資料9-1に基づき、2019年度収支報告書が適正であることの監査報告結果が報告された。

2019年度収支報告書より、2019年度末時点で次期繰越収支差額が130万円弱残されていることが確認された。

田村事務局長より、資料9-2に基づき、2020年度の収支予算（案）の説明があり、内容について確認された。2020年度は東日本大震災10周年の企画がありこの資料集の費用や、緊急災害報告会の費用などがあげられていることが示されている。

#### 11. その他（会員学会からの防災減災関連情報の提供・委員会活動紹介情報、NHKへのコメント提供者リストの更新、その他）

和田運営幹事より、会員学会からの防災減災関連情報の提供・委員会活動紹介情報、NHKへのコメント提供者リストの更新等への協力依頼があった。

最後に米田代表幹事より、新型コロナウイルス後をどうするのが今後重要だが、これは7月15日（予定）の意見交換会などのテーマとしたい、との考えが示された。

次回幹事会 9月中旬 （日程、場所、方法等は別途調整する。）

以上  
（文責：事務局・田村）

## 広報委員会報告

文責・萬年（2020.5.19）

### ○ ホームページ

- ・ 2018 年春からリニューアル。順次改訂。
- ・ （株）テクノリサーチにページ作成（小田原市）を委託  
「お知らせ」は事務局田口さん  
メンテナンス、新規ページはテクノさん
- ・ ルポページの作成  
所澤委員（共同通信）  
2019 年度 1 件（産総研松本会員・南会員をフィーチャー）  
マスコミ関係の会員から書いても良いという人あり。
- ・ 学会誌ページ、E P S ページの改訂  
外部ページに飛ぶ前のワンクッション  
E P S の A P C 割引方法などにアクセス容易に
- ・ 普及講座（おとな）・公開講座（こども）のテキスト送付願います  
2018 普及講座  
2019 公開講座・普及講座

### ○ Facebook

- ・ 管理者 中田節也会員、千葉達朗会員、萬年理事
- ・ 秋季大会時、HP 更新時（一般向けのもの）などに投稿  
（次世代プロの動向などとも連携必要……）
- ・ リーチ数最大：火山学会公開講座の報告（1105 リーチ）
- ・ 表彰などは大学等からシェアさせてくれとの声あり
- ・ 投稿数 2019 年度は 14 件（ただし学会期間に集中）

### ○ やってないこと

- ・ F B ・ M L 投稿のポリシー化（会員の宣伝は認めるか？等）
- ・ 学会誌の掲載について一般向け解説（F B, H P）
- ・ 学会誌投稿ページ（震研・安田さん作成のものを現在利用）
- ・ 資料集ページの細分化
- ・ 「安全に火山」パンフの改訂